

お知らせ

INFORMATION



No.2016-02
2016 年 2 月
病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたのでご案内いたします。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ 特異的 IgE f 353 Gly m 4(大豆由来) [16968]
- ◆ 特異的 IgE k220 Hev b 6.02(ラテックス由来) [16969]

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2016 年 3 月 14 日（月）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	f353 Gly m 4 (大豆由来)	k220 Hev b 6.02 (ラテックス由来)																					
コード	16968	16969																					
検体材料	血清 各 0.3mL																						
保 存	冷蔵																						
採取容器	No.1 → No.5																						
検査方法	FEIA																						
基準値・単位	クラス (0) 0.34 以下 UA/mL																						
判断基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス</th><th>特異的 IgE 抗体価 (UA/mL)</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td><td>0.34 以下</td><td>陰性</td></tr> <tr> <td>1</td><td>0.35～0.69</td><td>疑陽性</td></tr> <tr> <td>2</td><td>0.70～3.49</td><td rowspan="4">陽性</td></tr> <tr> <td>3</td><td>3.50～17.49</td></tr> <tr> <td>4</td><td>17.5～49.99</td></tr> <tr> <td>5</td><td>50.0～99.99</td></tr> <tr> <td>6</td><td>100 以上</td><td></td></tr> </tbody> </table>		クラス	特異的 IgE 抗体価 (UA/mL)	判定	0	0.34 以下	陰性	1	0.35～0.69	疑陽性	2	0.70～3.49	陽性	3	3.50～17.49	4	17.5～49.99	5	50.0～99.99	6	100 以上	
クラス	特異的 IgE 抗体価 (UA/mL)	判定																					
0	0.34 以下	陰性																					
1	0.35～0.69	疑陽性																					
2	0.70～3.49	陽性																					
3	3.50～17.49																						
4	17.5～49.99																						
5	50.0～99.99																						
6	100 以上																						
所要日数	3～6 日																						
実施料	110 点 (D015 11)																						
検査判断料	144 点 (免疫学的検査)																						

◆ グリ エム フォー Gly m 4 (大豆由来)

Gly m 4 は大豆アレルゲンコンポーネント*のうちの1つで、大豆のクラス2食物アレルギーの原因物質です。このタイプの大豆アレルギーは、原因がシラカンバやハンノキなどの花粉による吸入感作であり、共通抗原性がある大豆 (Gly m 4) を摂取した際に口腔症状などの様々なアレルギー症状を呈しますが、従来の特異的IgE (大豆) では、陰性と判定される場合があることが知られていました。しかし、本項目ではこれらの患者さんの多くを陽性として判定することが可能であり、大豆アレルギー診断補助に有用です。

◆ ヘ ブ ビー ロクテン ゼロニ Hev b 6 .02 (ラテックス由来)

Hev b 6.02 はラテックスアレルゲンコンポーネント*の1つで、臨床的な特異度が、既存の特異的IgE (ラテックス) と比較して高いことが報告されています。そのため、従来の特異的IgE (ラテックス) では、臨床症状がない方を陽性と判定することもありましたが、本項目と組み合わせて測定をすることで、ラテックスアレルギーの診断補助に有用と考えられます。

*アレルゲンコンポーネント：アレルギー原因物質から抽出されるタンパク質の中の単一のタンパク質

以上